

音楽科 学習指導案

日 時 平成25年10月10日(木) 5校時
学 級 3年1組(男子15名女子18名計33名)
場 所 矢巾北中学校 音楽室
授業者 山口 浩子

1, 題材名 「表現を工夫して合唱を楽しもう」

2, 教材名 「聞こえる」(混声3部合唱)

3, 題材について

(1) 教材観

「聞こえる」は、1991年(平成3年)のNHK合唱コンクール高等学校部門の課題曲として作られ、後に中学生向けに混声3部合唱も作られた曲である。

歌詞は、世界中で次々に起こるできごとを目の前にして、何もできない自分にいらい葛藤する思いを描いている。曲の背景には、天安門事件・ルーマニア革命・原油流出事故・ベルリンの壁崩壊・環境汚染などがあるとされている。

メロディはゆったりとした大きなフレーズの第1節から、ユニゾンで自然に語りかけるように始まっている。第2節では、主旋律をソプラノとテノールのオクターブ進行が、対旋律をアルトとバスのオクターブ進行が彩り、それぞれが絡み合って歌詞の内容を一層際立たせている。

さらに、第3節からは、混声3部合唱となり、総合的な表現が要求されるとともに、第5節後半のCodaにあたる部分では、「教えて下さい」という強い問いかけと「歩いて行きたい」という新しい決意の表現があらわれている。

それぞれの部分の歌詞の内容と音楽の構成にお合わせた表現の工夫が必要であり、また、どんな表現をしていきたいか・・・を考えるには優れた教材と言える。

(2) 生徒観

真剣に授業に取り組み、積極的な姿勢で学ぶことができる学級である。指導者やリーダーの指示を聞き、協力しながら学習を進めることのできる集団であり、グループ学習の形態が効果を上げる学級でもある。興味・関心を瞬間的に表に出したり、わかりやすい反応は少ないが、課題解決に向けて着実に学習を進めて行く姿勢を持っている。

これまでの学習で、歌詞の内容や曲想を感じ取り、それに合わせて表現を工夫する姿勢は見られて来たように思う。また、声部の役割を理解し、全体の響きを感じながら合唱することができて来ている。

しかし、曲種に応じた発声で歌うことや言葉の特性を生かして歌うことへの工夫は、まだまだできていない。

教室における授業では、4人組で学習グループが形成されており、話し合い活動が活発に行われているが、歌唱表現の学習ではパート別になって活動することが多い。できるだけ短時間で言語活動を行わせ、練習に費やす時間を確保するために学習シートを活用し、それぞれの考えをより高めるための発問の仕方や発表のさせ方に配慮する必要がある。

歌詞や音楽の構成、また、その背景にある時代やメッセージを感じ取りながら、表現を工夫し、合唱に生かして行く楽しさを体験させていきたい。

4, 題材の目標

観点1、歌詞の内容を理解し、曲の構成や旋律の重なりに関心を持ち、パートの役割・速度・強弱・発声などを工夫して合唱表現することに意欲的である。

観点2、歌詞の内容を理解し、曲の構成や旋律の重なりから来る良さを知覚・感受し、それを生かした合唱表現を工夫する。

観点3、歌詞の内容を理解し、曲の構成や旋律の重なり生かして、速度・強弱・発声を工夫して合唱表現することができる。

5, 題材の指導計画と評価規準

時	指導目標	評 価 規 準		
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	表現の技能
1	歌詞の内容をと曲の構成を意識しながら歌唱する	・歌詞の内容を理解し、諸要素（旋律・速度・強弱）と曲想の関わりに関心を持っている	・歌詞の内容を理解し、諸要素（旋律・速度・強弱）と曲想の関わりを知覚・感受している	・歌詞の内容を理解し、諸要素（旋律・速度・強弱）と曲想の関わりを生かして合唱表現する技能を身につけている
2	歌詞の内容を理解し、旋律・速度・強弱と曲想との関わりを生かした表現を工夫する	・歌詞の内容を理解し、諸要素（旋律・速度・強弱）と曲想の関わりを生かして表現することに意欲的である	・歌詞の内容を理解し、諸要素（旋律・速度・強弱）と曲想の関わりを生かした合唱表現を工夫している	・歌詞の内容を理解し、諸要素（旋律・速度・強弱）と曲想の関わりを生かして合唱表現する技能を身につけている
3	曲の構成に合わせて、それぞれのまとまりのイメージにあった合唱表現を工夫する	・曲の構成について深く考え、それぞれのまとまりのイメージに合わせて表現を工夫することに意欲的である	・曲の構成とそこから生まれる良さを知覚・感受している	・曲の構成を考え、それぞれのまとまりに合った発声や発音のニュアンスを工夫して表現する技能を身につけている
4 本 時	旋律の重なり方の違いを生かして、合唱表現を工夫する。	・歌詞の内容と旋律の重なり方の関わりを生かして合唱表現することに意欲的である	・歌詞の内容と旋律の旋律の重なりについてその関わりを知覚・感受し、それを生かした合唱表現を工夫している	・歌詞の内容と旋律の重なり方の関わりを理解し、それに合った音色やバランスで合唱表現する技能を身につけている

6, 本時の計画

(1) 指導目標

- ア、旋律の重なり方の違いを意識し、それぞれに合った音色やバランスを工夫することができる
- イ、曲の構成に合わせて、諸要素（旋律・発声・発音）を生かした表現の技能を身につけることができる

(2) 指導の構想

- ①学習シートを使って話し合った「曲の構成」と「それぞれのイメージ」に合わせてどんな要素の工夫があるか、提示する。
- ②第2節のソプラノ・テノールによるオクターブ進行の主旋律と、アルト・バスによるオクターブ進行の対旋律のバランスと音色の統一を練習の中で指導する
- ③ユニゾン・オクターブ進行・3部合唱のそれぞれの違いを意識させながら、部分練習を行わせる
- ④グループ練習の中で、学習シートで事前に交換した意見を取り入れて練習をすすめさせる
- ⑤終結部では・・・学習の成果をふりかえり、感受したことを言葉にして伝え合う場を設定する

思考力・判断力・表現力を育む言語活動として

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる (⑥)

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の留意点	評価の留意点
導入 10分	☆復習 1, 課題の設定	①前時の学習を想起しながら「聞こえる」を合唱する ②前時の学習シートから発表させる	・曲の構成を意識させながら演奏させる ・第1～2節のイメージとコーダのイメージを対比させながら発表させる	・曲の構成に合わせてながら、強弱・速度を意識しながら歌うことができているか ・曲の中のそれぞれの部分について自分なりのイメージを持つことができたか
		表現を工夫して合唱を楽しもう		
展開 30分	2, 学習課題達成の方法確認 3, 課題の追求 4, 学習課題の解決	④部分練習の仕方を確認する ⑤グループ練習1 ・第2節 主旋律と対旋律 ⑥グループ練習2 パート練習 ⑦練習の成果を発表する	・イメージに合った音色やバランスを追求するための手立てを示す ・具体的な練習方法を示す ・グループでの援助の仕方を明確にする ・グループで支援し合い、意見を出し合って練習するよう支援する	【関心・意欲】 ・イメージに合った音色やバランスを求めて、意欲的に練習に取り組んだか 【創意工夫】 ・発声の工夫や発音のニュアンスによる聞こえ方の違いを意識して、表現を工夫することができたか 【表現の技能】 ・曲の構成とイメージを生かした表現の技能を身につける事ができたか 【創意工夫】 ・練習前と練習後の音色の違いを感じ取ることができたか
終結 10分	5, まとめ	⑧第2節とコーダの部分で合唱する ⑧感想発表	・主旋律と対旋律の重なりやバランスを意識して合唱させる ・音色や表現技法を意識して発表させる	【表現の技能】 ・練習で身につけた奏法を使って、豊かな表現で演奏することができたか ・多彩な表現方法があることを知り、次時への関心が持てたか